



研究力強化に向けた研究パフォーマンス分析の戦略的活用 ～日本及び、オーストラリア、中国の取り組み～

近年、多くの大学では、既に研究パフォーマンスの分析を行っていますが、それらはどのように研究力強化に活用されているのでしょうか。今回のセミナーでは、国内外の講演者から事例などご紹介いただき、パフォーマンスデータの活用法について議論します。

【日 時】 2021年3月16日(火) 13:00～16:35

【場 所】 オンライン形式(Zoom)

参加URLとパスワードは、申込者へ別途ご連絡いたします。

【対象者】 URA、大学職員、国内外大学研究員等



プログラム

- 13:00-13:05 開会挨拶
九州大学 副理事 萩島 理 教授
- 13:05-13:35 特別講演
「大学の研究力の測り方とその指標、国際比較」
自然科学研究機構 研究力強化推進本部 小泉 周 特任教授
- 13:35-14:05 「オルトメトリクスを用いた尖った研究の発掘」
九州大学 インスティテューショナル・リサーチ室 学術推進専門員 松本 馨
- 14:05-14:35 「研究力分析とプロジェクト形成支援」
名古屋大学 学術研究・産学官連携推進本部
(IR戦略室兼務) URA 吉田 千穂
- 休憩(10分)
- 14:45-15:25 「メルボルン大学における研究業績に基づいた意思決定のためのデータ収集及び分析」
Ms. Barbara Slattery, Associate Director,
Research Analytics and Reporting, Research Development,
Faculty of Medicine, Dentistry and Health Sciences,
The University of Melbourne, Australia
- 15:25-16:05 「大学の研究力強化のための研究データ収集及び分析～北京大学の事例～」
Dr. Tang Lin, Scientific Research Director, the College of
Urban and Environmental Sciences, and
◎ Ms. Wang Miao, Foreign Affairs Director, the college of Urban and
Environmental Sciences, Peking University.
- 16:05-16:30 研究分析の活用についてー最後のアドバイスー
- 16:30-16:35 閉会挨拶
九州大学研究・産学官連携推進部 Grantサポート室 室長 クスターズ・ハロルド

問い合わせ・参加申し込み

◇参加申し込みフォーム <https://forms.gle/4DuVyKMJjnle1Ceh9>

◇問い合わせ

九州大学学術研究・産学官連携本部 研究企画・サポートグループ
Tel:092-802-2162 E-mail:grant@airimaq.kyushu-u.ac.jp



講演者プロフィール及び講演内容

小泉 周
自然科学研究機構 研究力強化推進本部 特任教授



慶應義塾大学医学部卒業。卒業後、生理学教室で、電気生理学と網膜視覚生理学の基礎を学ぶ。2002年米ハーバード大学医学部・マサチューセッツ総合病院・ハワード・ヒューズ医学研究所のリチャード・マスランド教授に師事。2007年に帰国し、自然科学研究機構生理学研究所の広報展開推進室准教授となる。2014年より、大学共同利用機関におけるURAとして、自然科学研究機構本部の研究力強化推進本部・特任教授となる。講演では各国の研究大学の最新のデータをもととして、大学の研究力の測り方、その指標の在り方と、国際比較について話す。

松本 馨
九州大学インスティテューショナル・リサーチ室 学術推進専門員



東京農工大学工学研究科博士後期課程修了、博士(工学)。産業能率大学総合研究所にて教育の情報化研究、eラーニング事業開発、情報戦略室にてIR体制の構築及びICT中期計画策定等に従事。その後、岡山県立大学大学教育開発センター特任助教として教学IR体制の構築に従事し、2019年8月より現職。研究者業績管理システムの保守運用、researchmap連携システム開発、IR関連調査等に従事している。講演では今後、強化していくべき研究テーマを発掘するための手がかりとする新しい指標「オルトメトリクス」の概要と、発掘するために開発したツール及びその活用方法について紹介する。

吉田 千穂
URA, 名古屋大学学術研究・産学官連携推進本部IR戦略室兼務



名古屋大学大学院情報科学研究科にて情報科学博士取得後、2012年より現職。プレアワード・ポストアワード支援や地域連携に携わった後、研究力・産学連携分析を担当している。所属組織の執行部や大学執行部に対し、戦略立案に資する分析レポートを発行している。講演では、大型プロジェクトの獲得に向けた研究パフォーマンス分析について話す。

Ms. Barbara Slattery
Associate Director, Research Analytics and Reporting, Research Development,
Faculty of Medicine, Dentistry and Health Sciences, The University of Melbourne



メルボルン大学医学部歯学および健康科学部の研究推進チームの研究分析および報告ポートフォリオを率いている。研究者の研究業績目標の計画及び実施において、情報に基づいた戦略的意思決定を可能にする分析と報告の開発、実施、提供を調整している。講演では、研究成果につなぐダッシュボード、視覚ツール、レポートの開発にチームと利害関係者がどのように関与するかを説明する。

Ms. Wang Miao
Foreign Affairs Director, Scientific Research Management,
College of Urban and Environmental Sciences, Peking University



オークランド大学のビジネススクールで修士号を取得。2020年に中国に帰国。中国農業銀行で顧客アカウントのデータ処理担当。現在、北京大学都市環境科学部に就職。大学で学術研究の管理と調整、外国人教員の管理を担当。講演では、データ分析が大学の研究パフォーマンスの強化のためにどのように使用されているかについて話す。